

「三股プライド」 ～心と形を整える～

令和4年5月27日（金） NO7 文責 木下 文秋

悲しい言葉

私が中学生の時に、ある身体的な特徴から「悲しい言葉」で揶揄^{やゆ}される（からかわれる）女の子がいました。その女の子はとてもおとなしく、どちらかと言えば教室で一人であることの方が多く目立たない存在でした。でも、今考えると、目立たないようにしていたのかもしれませんが。

私は、同調してからかうことはありませんでしたが「やめないよ」という勇氣は持っていました。その女の子に対するからかいは、それ以上発展して、悪質ないじめや暴力につながることはなく、逆にそれが事態を好転させなかった理由なのかもしれません。それから、数十年。連休明けに地元のスーパーで働いている女性にばったり会いました。その女性は間違いなく「悲しい言葉」で揶揄^{やゆ}されていたあの女性でした。私は思わず隠れてしまいました。なぜ、隠れたのか自分でもわかりませんが、恐らく自分自身に後ろめたさがあったからだと思います。特別いじめたり、からかったりしたわけでもありませんが、それを止めなかったこと、何か力になれなかったことが「元気？」という一言につながらず「思わず隠れた」のだと思います。その女の子にもご家族がいるでしょう。ご両親や兄弟姉妹が学校でからかわれている様子を見たとしたら、どう思われたことでしょうか。「もしそれが、自分の弟や妹だったら…」と考えると胸がしめつけられて、ぞっとします。私は何十年も前のことを、今も忘れられずにいます。恐らく、一生忘れられないと思います。叩いたり、蹴ったりすることだけが「いじめ」や「暴力」ではありません。その人の身体的特徴や癖など、もって生まれた特性をからかうことは立派な「言葉の暴力」で、その人の人権そのものを侵害する行為です。人は失敗をしたり、反省をしたりすることで成長し、大人になっていきます。でも人を馬鹿にしたり、からかったりすることで成長することなどひとつもありません。みんなの周りに「これはどうだろう？」と思うようなことはありませんか？もし気になることがあれば、また実際に気になることを受けている人がいれば、勇氣を持って声に出してみてもどうでしょうか。人は皆平等に生まれてきました。住む世界や環境は違いますが、そのことで差別を受けることなどあり得ません。人はすべて「かけがえのない命」を持つ「かけがえのない存在」です。みんなの力で周りにある「悲しい言葉」を排除しませんか。